

津軽ダムだより

204号

2017年

3月31日

～さよなら 津軽ダム工事事務所～



閉所式に出席された来賓の皆様と津軽ダム工事事務所職員による記念写真

津軽ダムは、昭和35年に完成した「目屋ダム」の再開発事業として、昭和63年4月に事業着手、平成3年4月に建設着手し、平成28年10月16日には竣工式を行いました。

平成29年3月末で津軽ダム建設事業が、完成となるので、津軽ダム工事事務所は役割を終えます。3月31日には閉所式を行い、昭和63年4月に前身である津軽ダム調査事務所を開設して以来、29年間の歴史に幕を閉じました。



鈴木所長による事務所看板の降納



津軽ダム建設事業完成にあたって

津軽ダム工事事務所長 鈴木 勇治



津軽ダム建設事業は、皆様の温かいご支援ご協力により、無事完成することができました。

津軽ダムは、目屋ダムの再開発事業として昭和63年4月に事業着手、平成3年4月に建設着手し、平成28年10月に竣工式を行い、事業着手から29年の歳月を経て、平成29年3月に完成となりました。

これもひとえに、先祖伝来の貴重な土地をご提供いただきました地権者の皆様をはじめ、地元西目屋村、弘前市、青森県等の関係機関の皆様のご理解とご協力の賜と心から感謝を申し上げます。

また、これまで安全管理や品質の確保、工期の短縮等に徹底して取り組んでいただくとともに、平成23年4月には、東日本大震災に直面し、数ヶ月にわたり、工事が中止するなど、幾多の困難を克服し、鋭意工事の施工にご尽力いただいた工事関係者各位に対し、深く敬意を表します。

津軽ダムは、旧目屋ダムの3.6倍の総貯水容量を持ち、洪水被害の軽減、かんがい用水の補給、水力発電、さらに水道用水・工業用水の供給、良好な河川環境の保全の6つの目的を持つ多目的ダムです。4月からは、管理へ移行し、本格的な運用を開始するので、岩木川流域の皆様の安全と安心の向上、地域の産業や経済基盤の安定に効果が発揮することが期待されます。

今後、津軽ダムは、世界自然遺産白神山地をはじめとする周辺エリアの魅力をより広く発信するとともに、近隣の自治体等とも連携しながら、魅力有るダムツーリズム（ダムツアー、ライトアップ、水陸両用バスの運行、カヌー体験など）に地元西目屋村が中心となってつながるよう、地域と一体とな



津軽ダムと津軽白神湖

って積極的に支援して参る所存でございますので、引き続き、ご支援をお願いいたします。

津軽ダム本体建設工事完成にあたって

安藤ハザマ・西松特定建設工事共同企業体
津軽ダム作業所長 鈴木 篤

津軽地方の安全で豊かな暮らしを実現するための大きな役割が期待されている津軽ダム本体工事は、平成20年11月に着工し、ようやく完成を迎えることとなりました。工事にあたっては、地域で暮らしている皆様との共存や信頼関係を作り上げることや、環境への配慮を弛まず行ってきました。

工事半ばに直面した東日本大震災では、数ヶ月間にわたって工事が中止となり、工程の回復には様々な回復策を講じました。例えば、巡回RCD工法によるリフトスケジュールの改善、取・放流設備工事と同時施工のための上流仮設構台設置、コンジットゲートや取水設備巻上げ装置部のダム本体部同時施工のための鋼・コンクリート合成床版の施工、堤体上下流張出部の薄肉残存型枠設置など、知恵を絞りながら工程回復に邁進しました。

また、試験湛水では、約2ヶ月の間に堤内仮排水路を閉塞することが命題でした。ここでも維持放流を行う傍らで閉塞を行うための締切堤設置など、現場状況の変化に合わせて施工促進の対応を講じました。閉塞工が完了したのはクレストから貯水が溢れ出るまさに1分前という非常にタイトな工事だったことを記憶しております。

労働災害防止活動では、津軽ダム建設工事等事故防止対策協議会を運営し、事故防止に努めるとともに、地域貢献活動に力を入れてきました。特に、高齢者一人暮らし世帯の除雪ボランティアを展開するなかで、多くの会員の皆様には多大なご協力を頂きました。一方、JV自体における安全衛生活動としては、厚生労働省の「あんぜんプロジェクト」の活動に参加し、安全の「見える化」を推進し、環境省の「熱中症予防声かけプロジェクト」にも参加し、「優良声かけ賞」を受賞させていただきました。

地域との融和の面では、満水の様子を後世に語り伝えてもらうことを願って、自主制作ビデオを西目屋チャンネルで放送させていただきました。また、ご婦人によるよさこいソーランチームに若手職員がこぞって旗振りに参加し、7年間交流を育んできました。

最後に、これまでに幾多の技術的な課題を乗り越えながら工事を進めてきましたが、この工事の完成に導くことが出来たのは、西目屋村をはじめとした地域の皆様、多くの地元企業各社様の絶大なるご協力とご支援があったこそであると思っております。改めて皆様に心より御礼を申し上げます。



ダム本体と放流設備工との同時施工



除雪ボランティアを実施



よさこいソーランチームに参加

～津軽ダム建設事業「完成までのあゆみ」～

津軽ダム建設事業は、昭和35年に完成した「目屋ダム」の再開発事業として、昭和63年4月に事業着手し、平成29年3月末で完成となりました。

そこで、津軽ダム建設事業が29年の歳月を経て、完成するまでを「完成までのあゆみ」と題して、紹介いたします。

昭和63年4月 実施計画調査を開始

津軽ダムの建設について、さらに詳しく調査することになり、津軽ダム調査事務所を開所し、「実施計画調査」に着手しました。



【津軽ダム調査事務所を開所S63.4.1】

平成3年4月 建設着手

調査事務所から工事事務所と名前を改め、いよいよ津軽ダム建設着手へ向けて、津軽ダム工事事務所が立ち上がりました。

津軽地域の声が結実し、ついに本格的な津軽ダム建設に臨む組織・体制が確立されました。

平成5年11月 津軽ダム建設に関する基本計画告示

「基本計画」とは、ダムを建設する場所や目的、ダムの大きさや貯水量及びダム建設にかかる費用や費用負担の割合について、関係者と協議して決められる計画のことです。

津軽ダムの目的は、目屋ダムの目的である「洪水調節」「かんがい用水」「発電」に加え、「工業用水」「水道」「流水の維持」を加えた計6つの目的を持つ多目的ダムとして計画され、これにより、津軽ダム建設に向けて事業が具体的に動き出しました。

平成8年12月 下流工事用道路着手

津軽ダム建設工事で大型建設機械搬入や大量の資材運搬のため大型車両が往来することから、安全で安心して通行できる道路が必要となります。しかし、ダム建設予定地～弘前市下湯口までの区間の道路の幅員が狭く、急カーブが多い道路しかないことから、主要地方道岩崎西目屋弘前線を下流工事用道路として整備することとし、青森県との合併施工により着手しました。当該路線は世界自然遺産「白神山地」へのアクセス道路としての期待も大きく、観光道路としての役割を果たします。



【下流工事用道路の工事状況】

平成12年8月 「津軽ダムに伴う一般補償に関する協定」の締結

平成12年8月に、一般補償に関する協定が締結されました。「一般補償」とは、ダム建設事業に伴い水没する地区に対する損失補償のことです。調印式を迎えられたのは、ひとえに岩木川流域の苦しい水事情を知っている、西目屋村砂子瀬・川原平の方々が最大限に協力していただいた結果であり、心より感謝を申し上げます。



【一般補償に関する協定(H12.8.8)】

平成17年7月 津軽ダム基本計画第1回変更

平成5年度に告示した基本計画の内容を一部変更しました。変更により工期が「平成28年度まで予定」となりました。

平成19年4月 津軽ダム本体関連事業の着手

ダム本体建設工事に先立ち実施する必要がある工事として、ダム堤体コンクリート用骨材を採取・運搬するための「原石山進入路工事」とダム基礎掘削土を搬出したり、堤体コンクリートを運搬するための「下流工事用進入路工事」及びダム本体建設時に目屋ダムの放流水を安全に流すための流路の拡幅等を行う「流路整正工事」を着手し、ダム本体建設工事に向けた準備が本格化しました。



平成19年8月 津軽ダム基本計画第2回変更

平成5年度に告示し、平成17年度に第1回変更した基本計画について、第2回変更では、洪水調節量・利水計画・ダム規模・費用負担割合・事業費の変更を行いました。

平成20年11月 津軽ダム本体建設工事着工

津軽ダム建設事業は、予備調査開始から数えて25年の歳月を経て、津軽ダム本体建設工事が着工となりました。

周辺環境に配慮して造られる「津軽ダム」は岩木川流域の安全とさらなる発展を支えるとともに白神の自然と人々との共生空間を目指し、平成28年度の完成に向けて、本体工事を着工しました。



【本体着工式(H20.11.17)】

平成22年5月 津軽ダム本体コンクリート打設開始式

平成20年11月にダム本体建設工事に着工し、順調に工事が進み、本格的なコンクリート打設作業を開始するにあたり、「打設開始式」を行いました。



【打設開始式(H22.5.21)】

平成22年10月 津軽ダムの日（感謝と定礎の式典）

平成22年5月にコンクリート打設開始式を行い、本格的なダム本体工事が始まり、津軽ダム建設のためにご尽力、ご協力いただいた用地提供者の方々に現在の工事状況を見ていただき、工事が順調に進んでいることへの感謝の意を表するとともに、岩木川沿川市町村、青森県中南地域県民局、津軽ダム工事事務所が共同でダムサイトに



【津軽ダムの日(H22.10.28)】

礎石を備えダムの永久堅固と安泰、工事の安全を祈願する日として行いました。

平成24年4月 新ダム湖を「津軽白神湖」と命名

津軽ダムの完成により新たにできる湖の命名を一般の方からアイデアを募集し、ダム湖命名懇談会において、検討し、第3回ダム湖命名懇談会において、新しいダム湖の名称が『津軽白神湖（つがるしらかみこ）』に決定しました。



【津軽白神湖命名(H24. 4. 25)】



平成24年10月 木戸ヶ沢貯水池保全施設定礎式

津軽ダム完成により新たに誕生するダム湖（津軽白神湖）の水が木戸ヶ沢鉱滓堆積場のかん止堤に及びことを防ぐために造られる木戸ヶ沢貯水池保全施設の定礎式が行われました。木戸ヶ沢貯水池保全施設は、堤高が43.2m、堤頂長が98.0mの重力式コンクリートダム型式の施設となります。



【木戸ヶ沢貯水池保全施設定礎式(H24. 10. 31)】

平成26年5月 木戸ヶ沢貯水池保全施設堤体コンクリート打設完了式

平成24年9月に堤体コンクリート打設を開始し、最終コンクリート打設を迎えたので打設完了式が行われました。式典では、お清めする儀式を行い、地元西目屋小学校の皆さんが最終打設場所にメモリアルストーンを置いたあとに、最終打設を行い、打設完了を関係者一同、万歳三唱で祝いました。



【木戸ヶ沢貯水池保全施設堤体コンクリート打設完了式(H26. 5. 30)】

平成26年8月 津軽ダム本体コンクリート打設完了式

平成26年8月に本体コンクリート打設の完了を迎えることから打設完了式を行いました。

最終打設箇所をお清めする儀式を行い、地元西目屋小学校児童と来賓の方によるメモリアルストーンを設置したあと、最終打設を行いました。最後には、ダムの早期完成を願って、関係者一同、万歳三唱を行いました。



【本体コンクリート打設完了式(H26. 8. 28)】

平成26年10月 津軽ダム付替県道全線開通

津軽ダム建設に伴い水没する区間の付替県道として県と国との合併施工により工事を進めてきました主要地方道県道岩崎西目屋弘前線を全線開通するので開通式を行いました。付替県道の延長は、7.8kmで平成14年度に建設着手し、平成19年7月には2.6kmを一部開通し、残り5.2kmと主要地方道岩崎西目屋弘前線に接続する県道西目屋二ツ井線1.1kmを開通しました。開通式では、来賓の皆様からご祝辞等をいただき、最後には、出席者一同、万歳三唱で開通を祝いました。



【付替県道全線開通式(H26.10.11)】

平成28年2月 湛水式（試験湛水開始）

津軽ダムの建設工事も終盤を迎え、ダムの本格的な運用を開始する前に、実際に水を貯めてダム等の機能を確認するための試験湛水を開始するので、開始にあたり、湛水式を行いました。



【湛水式(H28.2.13)】

平成28年9月 試験湛水終了

平成28年2月13日から開始した試験湛水は、4月18日に洪水時最高水位、6月7日に試験湛水終了水位に到達し、試験湛水における観測データの整理・詳細な取りまとめを行い、ダム本体や基礎地盤、貯水池周辺地山等の安全性を検証し、9月7日に安全性に問題がないことが確認できましたので試験湛水を終了しました。

平成28年10月 竣工式

昭和63年4月の事業着手から、28年の歳月を経て、竣工を迎えたので竣工式を行いました。

竣工式では、主催者の挨拶や来賓の方々から御祝辞を頂戴し、事業経過報告、西目屋小学校児童の皆さんからの期待の言葉、記念放流、用地提供者代表の方による故郷献花、湖名碑除幕、くす玉開披を行ったのち、最後に参加者全員による万歳三唱で津軽ダムの竣工を祝いました。



【竣工式(H28.10.16)】



平成29年3月 津軽ダム建設事業完成

昭和63年に事業着手した津軽ダムは、地権者の皆様をはじめ、関係機関の皆様のご理解とご協力により平成29年3月末で完成となりました。ダムの完成に伴って、津軽ダム工事事務所は閉所となり、平成29年4月からは、本格的なダム管理へと移行し、新事務所での運用を開始します。

～ 岩木川ダム統合管理事務所を設置 (浅瀬石川ダム・津軽ダム) ～

平成29年3月末で津軽ダムの完成に伴って、津軽ダム工事事務所は役割を終えます。平成29年4月からは、新たに岩木川ダム統合管理事務所を設置して、浅瀬石川ダムと津軽ダムの統合管理を行います。

浅瀬石川ダムを管理している浅瀬石川ダム管理所は、統合管理に伴い、岩木川ダム統合管理事務所浅瀬石川ダム管理支所となります。

岩木川ダム統合管理事務所

住所 〒036-1422 青森県中津軽郡西目屋村大字居森平字寒沢138-2
TEL 0172-85-3035 (代表)
HPアドレス <http://www.thr.mlit.go.jp/iwakito/>

岩木川ダム統合管理事務所 浅瀬石川ダム管理支所

住所 〒036-0404 青森県黒石市大字板留字杉の沢2
TEL 0172-54-8782 (代表)
HPアドレス <http://www.thr.mlit.go.jp/iwakito/>

*住所、電話番号とも浅瀬石川ダム管理所と同じになります。

岩木川ダム統合管理事務所案内図



★ 編集後記 ★

津軽ダム工事事務所が発行する最後の「ダムだより」となります。1999年2月に創刊してから18年にわたり、津軽ダムの工事状況や地域の情報等を発信してきました。私も2年間、広報業務に携わり、現場見学会で多くの方々に津軽ダムを紹介することが出来たとともに、試験湛水や竣工式と津軽ダムの完成に立ち会うことができたので、非常によかったと実感しております。2年間ありがとうございました。(佐々木)

編集・発行

国土交通省 東北地方整備局
津軽ダム工事事務所

〒036-1411
青森県中津軽郡西目屋村田代字神田57

TEL 0172-85-3005
FAX 0172-85-3008

津軽ダム工事事務所
ホームページアドレス
<http://www.thr.mlit.go.jp/tugaru/>

